

湿原に残る石造物

1. 製氷用の石枠か

猪の瀬戸湿原に流入する水口川を少しさか昇ると、左手に切石で囲った長方形の枠が2つ並んでいる。どちらもほぼ同じ大きさで上流に当たる西側のものが50cmほど高い位置にある。

底はほぼ平らになっていて、長辺が約11mで短辺が約9mで、深さ30～40cmである。(写真1)

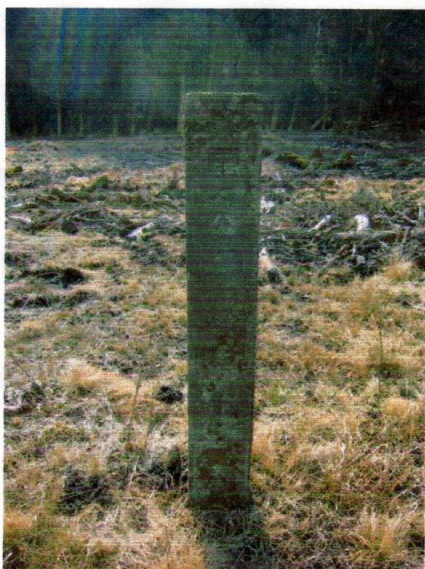
「昔この枠で天然氷を作り、別府の町まで運んでいた」という話があるが、文献は見たことがない。

仮に事実とすれば、どのようにして運搬したのか、おそらく背負子にでも乗せて人力で運んだと想像されるが、重い上にスピードも要求されたであろうから、大変な仕事で、氷の価値も高かったであろう。

別府の古い生活史が記載された資料で、確認したいものである。資料等確かな情報をご存じの方は事務局までお知らせください。



(写真1)これで氷をつくっていたのか



(写真2) 湿地に建つ石柱

2. 電話ケーブル埋設指標標柱か

これも、用途のはっきりしない石造物(写真2)です。輪地切りを始めたころに、湿地の奥まった水口川に近いところに2本の石柱を見つけました。

高さ1m40cmで1辺20cm四方のコンクリート製の柱で、四面のうち一面は無地で三面にはそれぞれ「地下線」、「電々公社」、「電々公社のマークと直下」と刻まれています。

最終的には県道から造林地にかけて東西6本を確認しています。

刻まれた文字から類推するとNTTが電電公社と呼ばれていた時代に別府～湯布院に電話ケーブルを埋設した標識として建てられたものと思われるが、文献や資料で確かめたわけではない。

いつの時代に、何の目的で6本もの石注を建てたのか、資料で確認された方は教えてください。